

令和4年度実践事例報告書

学校番号	情 01	学校名	日本文理大学附属高等学校		担当教員名	安東慎一郎
ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 (c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 地域との連携活動 (e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制					
関連法 (○印)	(a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) その他 ()					
年間の取組内容		実施時期	該当する要素の番号		知財学習の要素	
①弁理士オンライン授業		7	6, 7, 9, 12, 13	1. 創造 創造し表現する 体験	レ	(1)創造性を鍛える
②県発明協会出前授業		5	4, 5		レ	(2)情報を利用する能力
③探究知財学習		5-12	6, 7, 9, 11, 12		レ	(3)発想・技術を表現する能力
④パテントコンテスト等応募 応募 2、入選 1		5-12	1, 2, 3, 4, 6		レ	(4)観察力を鍛える
⑤ペットロケット競技会		5-7	1, 2, 3, 4		レ	(5)技術を体系的に把握する能力
⑥特許検索競技会		10-11	2, 4, 8, 10, 12	2.保護 財産として保護・ 尊重する意識	レ	(6)商品や社会とのつながりの理解
⑦山口大知財甲子園		2	1, 2, 3, 4		レ	(7)保護・尊重する意識
⑧文化祭作品等展示		10	3		レ	(8)技術等と権利の対応関係を把握する能力
⑨					レ	(9)手続の理解
⑩				3.活用 社会で活用する 知恵と行動力	レ	(10)権利を活用する能力
⑪					レ	(11)産業や経済との関係性の理解
⑫				4.知識 社会制度の理解	レ	(12)制度の学習
⑬					レ	(13)専門家、資格制度の関する知識
令和3年度末における取組目標の達成見込	A	ほぼ達成(9割以上)	判 断 理 由	知財学習の知識分野は出前授業や探究等の授業で創造分野はコンテスト応募等で取り組んだが、保護、活用分野の学習は不十分であった。		
	B	概ね達成(7割以上)				
	C	やや不十分(5割以上)				
	D	あまり達成できていない(5割未満)				
実施方法	<input type="checkbox"/> 全校で実施 <input checked="" type="checkbox"/> 教科・学科で実施 <input type="checkbox"/> 特別活動で実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(発明クラブ)					
本取組の状況 (なるべく具体的な数値やコロナ禍での取組等を含めて記載をお願いします)	弁理士や発明協会による出前授業を実施し生徒の知財学習に対する学習意欲を高めた。 総合的探究の時間で知財学習(創造、保護、活用、知識)に取り組んだ。 特許検索競技会(JPlatPat 利用課題)に取り組み 10名の生徒が認定を受けた。 各種コンテストに積極的に取り組んだ。IoT 作品が入選することが出来た。					
最も重視した取組又は成果のあった取組等 取組番号 [②]	成果内容	知財学習に対する抵抗感が減り、知財学習やパテコン、発明くふう展等の創造活動に取り組んだ。				
	生徒・学生に見られた変化	県発明協会出前授業を通じて知財を身近に感じ、各種コンテストに取り組んだ。 夏休課題「知的創造」で様々なアイデアが提出されが、応募できるものが少なかった。				
	その根拠	生徒感想文、夏休課題「知的創造」で様々なアイデアが提出された。 アイデアはオンラインで提出させた。				
今後の課題	創造に新規性、進歩性が乏しく、なかなか応募まで至らない。					
課題への対応	身の回りの製品や入選作品等を観察するなど生徒の知見を増やしたい。					

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



20220704 弁理士出前授業



20220602 バンダイガンプラ授業



20220713JAXA ペットロケット競技会

マイコンボードの作品コンテスト

【佐伯 教員マイコンボードを使って自由に作品を制作する】の新しいマイクロビットコンテスト2022にて、日本文壇大付属

高(佐伯市鶴谷町)2年の
児玉悠河さん16と三浦
惠龍さん16が作った、遊
びながら床掃除ができる
「モップカーリング」が3
位の特別賞に選ばれた。

「たのしいマイコンボードコンテスト」で特別賞を受けた三浦惠龍さん(左)と児玉悠河さん=佐伯市鶴谷町の日本文壇大付属高

座の特別賞に選ばれた。マイコンボードは、プログラム開発ができるようにあらかじめ最低限必要なハードウェアをボードに組み込んだ装置。コンテストは科学分野の教材開発などを手がける企業(東京都)がものづくりの魅力を伝える目的で主催。5回目となる今回は全国から約6万の応募があった。

モップカーリングは、送信機を取り付けたモップを動かすと、受信機を搭載した電動カーリングシステムが追いかける仕組み。掃除を楽しくする着目点が評価された。2人は「楽しく作ることができた。良いアイデアを練り、次回はもっと上位を目指したい」と喜んだ。(小松和茂)

20221012 microbit コンテスト特別賞
(県発明くふう展教育庁賞、全日本学生児童発明くふう展応募)

「お石灰」なせんべい最優秀賞

東京都の津久見で商品アイデア表彰

「津久見」石灰石・セメントを素材にデザインを生かした商品アイデアのコンテスト表彰式が、津久見市民会館であった。津久見市民会館が初めて企画。昨年は1月から今年1月までアイデアを募集し、市内外から一総61点、学生136点の計197点が寄せられた。最優秀賞には津久見市産(東宮製菓、主催)による「おせんべい」がある。

「焼き印にしたせんべい」は、焼きたてのせんべいに「くみんお石灰」の焼き印を施す。恋慕のアイデアは土産品や食器メニューとして商品化できないか、事業者などへ検討するといふ。他の入賞者は次の通り。

【優秀賞】前・高橋明彦(学生)・中村玲(前・高橋明彦)・林理一(前・高橋明彦)【最優秀賞】前・高橋明彦(学生)・田嶋(学生)【特別賞】前・高橋明彦(学生)・田嶋(学生) (次ページ)

石灰石・セメントを生かした商品アイデアコンテストの入賞者ら一津久見市民会館

20220610 津久見セメント商品アイデア入選

大分県発明協会発明くふう展出前授業

大分県発明協会による発明くふう展出前授業では大分県発明くふう展や入選作品紹介を行った。同じ高校生による発明くふうに触れ、自分たちも発明くふうに取り組んでみようという意識醸成が出来た。その後の知財学習やパテントコンテストや発明くふう展、その他コンテストへの取り組みにつながった。

1531 伊東聖奈↓

たくさん発明が見えて面白かったです。私も日頃から色々なことに目を向けてなにかみんかの役に立つような道具を発明できたらいいなと思いました。↓

1501 足立知駿↓

様々な発明や工夫によって僕達の生活が便利になっていることがわかった。体に障害がある人のための工夫もたくさんあってすごいと思った。↓



1535 染矢 芽ら↓

私は、特に扇子式ちりとりが印象に残りました。集めにくい所があるという課題からあんなに素晴らしい発明ができるのはすごいと思っし私も使いにくいと思ったりしたらメモしておこうと思いました。↓

1534 下川歩実↓

1から作ることが、発明だと思っていましたが今あるものに少しの工夫だけで発明になるということを知りました。自分の身の回りを日頃から観察して、人々が快適に暮らせるように考えていきたいです。↓

